

## 令和5年播種（令和6年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔2月10日調査結果〕

\* 2月13日に調査を実施

### 1 気象概況〔12月中旬～2月上旬〕(図1)

- 平均気温は、12月第5半旬は低温となったが、それ以外の期間では平年より高く推移した。
- 降水量は、12月第3～4半旬が平年より多く、1月第5半旬は大雪となったが根雪とならなかった。
- 日照時間は、1月第5半旬は平年よりも短いが、期間全体を通して概ね平年並だった。

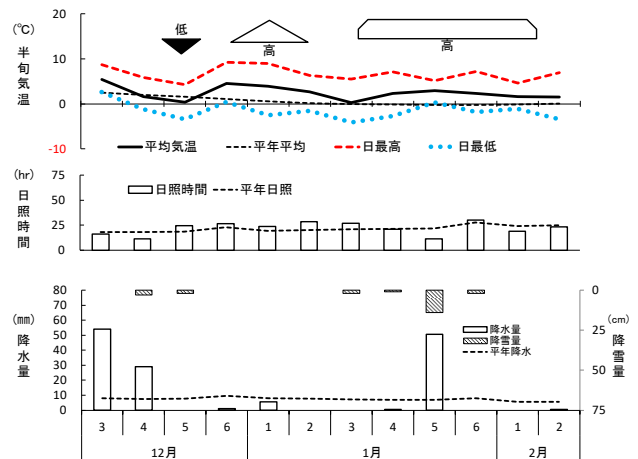


図1 気象経過 古川アメダス

### 2 生育概況

#### 1) 2月13日現在の生育状況（表1）

##### 10月中旬播種区

- 草丈は、大麦が平年よりやや長い～長く（平年比 107～120%）、小麦は平年よりやや長い～長かった（平年比 111～119%）。
- 茎数は、大麦が平年よりやや少なく（平年比 91～94%）、小麦は平年並～平年よりやや多かった（平年比 103～110%）。
- 葉数は、大麦は平年より多く（平年差+1.1～+1.2葉）、小麦も平年より多かった（平年差+1.1～+1.2葉）。生育ステージは平年よりも早く経過した。

##### 10月下旬播種区

- 草丈は、大麦が平年よりやや長く（平年比 113～114%）、小麦は平年並だった（平年比 96～103%）。
- 茎数は、大麦が平年より多く（平年比 136～150%）、小麦も平年より多かった（平年比 170～178%）。
- 葉数は、大麦が平年より多く（平年差+1.2～+1.5葉）、小麦も平年より多かった（平年差+1.3～+2.0葉）。生育ステージは平年よりも早く経過した。

#### 2) 2月13日現在の幼穂長及び幼穂分化程度（表2）

##### 10月中旬播種区

- 大麦の幼穂長は、平年より長く（平年差+1.4～+1.2mm）、幼穂形成期始期はシュンライで1月5日、ミノリムギで1月16日に達している
- 小麦の幼穂長は、0.4～0.5mmで概ね平年並であった。幼穂形成始期には達していない。

##### 10月下旬播種区

- 大麦の幼穂長は、平年より長く（平年差+0.4mm）、幼穂形成期始期はシュンライで2月12日、ミノリムギで2月13日に達している
- 小麦の幼穂長は、0.3～0.4mmで概ね平年並であった。幼穂形成始期には達していない。

### 3 栽培管理の状況

- 踏圧については1回目を12月14日、2回目を2月14日に実施した。
- 幼穂形成期追肥を大麦の中旬播種区で2月15日に実施した。

表1 生育状況

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)		
		本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差
シュンライ	中旬播種区	11.4	112	107	858	77	94	7.0	+1.2	+1.2
	下旬播種区	8.2	113	113	799	142	136	5.5	+1.0	+1.2
ミノリムギ	中旬播種区	13.1	119	120	956	81	91	7.2	+0.7	+1.1
	下旬播種区	8.9	116	114	885	129	150	6.1	+1.6	+1.5
シラネコムギ	中旬播種区	13.8	118	119	977	76	103	7.1	+0.6	+0.8
	下旬播種区	10.2	99	103	1008	131	178	6.6	+1.7	+2.0
夏黄金	中旬播種区	10.8	115	111	937	97	110	7.0	+0.6	+0.9
	下旬播種区	8.2	97	96	682	154	170	5.6	+1.2	+1.3

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

表2 幼穂長及び幼穂分化程度

品種	区別	幼穂長(mm)			幼穂分化程度	幼穂形成始期		
		本年	前年	平年		本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)
シュンライ	中旬播種区	2.8	1.3	1.4	Ⅸ	1/5	1/5	1/28
	下旬播種区	1.1	0.6	0.7	Ⅶ	2/12	3/2	3/3
ミノリムギ	中旬播種区	2.3	1.1	1.2	Ⅸ	1/16	1/14	2/8
	下旬播種区	1.0	0.5	0.6	Ⅶ	2/13	3/2	3/4
シラネコムギ	中旬播種区	0.5	0.3	0.4	V未滿	-	3/6	3/10
	下旬播種区	0.4	0.2	0.2	V未滿	-	3/11	3/19
夏黄金	中旬播種区	0.4	0.3	0.3	V未滿	-	3/4	3/10
	下旬播種区	0.3	0.2	0.2	V未滿	-	3/11	3/20

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 幼穂分化程度: V期未滿は省略。

注4) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。

〔参考〕麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5~0.6	0.6~1.0	1.0~1.2	1.2~4.0	4.0~5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5~0.7	0.7~1.5	1.5~2.0	2.0~4.0	4.0~5.0	

注1) 幼穂分化程度はI~Xの10期に分類されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。

注2) 厳密にはⅦ期は前期と後期に、Ⅸ期は前期、中期、後期に区分される。

令和5年播種（令和6年産）麦類生育調査ほ生育状況〔2月10日調査結果〕

表3 麦類生育調査ほ 生育状況

担当普及センター	品種	実施場所	播種期	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			幼穂長(mm)
				本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	
大河原	シュンライ	大河原町金ヶ瀬	11/16	8.2	122	110	382	231	140	0.2
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	11/11	8.6	115	—	357	200	—	0.2
仙台	シュンライ	仙台市宮城野区	10/16	11.8	110	—	828	61	—	1.8
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	10/20	14.7	115	144	1529	234	289	0.4
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	10/26	14.7	144	170	993	84	163	0.2
	夏黄金	涌谷町猪岡	10/23	11.1	129	—	634	110	—	0.0
登米	あおばの恋	登米市豊里町	11/1	10.3	117	111	454	192	203	0.4
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	10/2	19.4	148	178	791	93	131	3.3
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/14	12.2	102	110	856	90	181	1.3
	シラネコムギ	石巻市桃生町	10/25	9.0	—	—	946	—	—	0.8

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原町「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、平年比(差)はない。

注3) 仙台市「シュンライ」は、令和4年度播種から調査のため、平年比(差)はない。

注4) 石巻市「シラネコムギ」は、令和5年度播種から調査地変更のため、前年比(差)、平年比(差)はない。

<生育調査ほの状況等>

大河原 「シュンライ」、「ホワイトファイバー」

- ・2月10日現在の生育量は平年並み。播種期が遅かったが、温暖に経過しているため生育良好。
- ・幼穂が確認され、平年より生育はやや早い。
- ・鳥害等はなし。

仙台 「シュンライ」

- ・12月下旬以降、平均気温は平年より高く推移した。
- ・幼穂長は1.8mmであった。
- ・鳥類（ハクチョウ等）による食害がみられた。
- ・麦踏み未実施。

大崎 「シラネコムギ」

- ・1月から2月第2半旬にかけて、気温は平年より高く推移し、降雨・降雪量は1月第5半旬を除き、少ない傾向であった。
- ・2月10日現在の生育量は、草丈が14.7cm、茎数が1529本/m<sup>2</sup>であった。
- ・幼穂長は0.4mmであった。
- ・ほ場が雪に覆われている期間は短かったが、例年多くみられる鳥害は少なかった。

美里 「シラネコムギ」、「夏黄金」

- ・「シラネコムギ」は、一部の区で若干鳥害を受けたが、生育への影響はない程度。「夏黄金」は鳥害少。生育への影響は軽微。
- ・下葉にやや肥料切れが見られる。

登米 「あおばの恋」

- ・草丈は、鳥類の食害により前回調査時（12月15日）より短いが生育は回復傾向。
- ・幼穂長は0.4mm。

石巻 「シュンライ」、「ミノリムギ」、「シラネコムギ」

\*R6年産から「シラネコムギ」の調査地を変更。

- 12月の平均気温は平年差+0.9℃、日照時間は平年比118%、降水量は平年比119%であった。1月の平均気温は平年差+2.2℃、日照時間は平年比113%、降水量は平年比215%だった。平均気温が平年よりもかなり高く、進む生育に伴い黄化が進むほ場も多く見られた。
- 2月10日現在の生育量は、「シュンライ」草丈は19.4cm、茎数は791本/m<sup>2</sup>、幼穂長は3.3mmだった。「ミノリムギ」草丈は12.2cm、茎数は856本/m<sup>2</sup>、幼穂長は1.3mmだった。「シラネコムギ」草丈は9.0cm、茎数は946本/m<sup>2</sup>、幼穂長は0.8mmだった。また「シラネコムギ」において葉先の鳥害が見られた。
- 「シュンライ」ほ場においてほ場畦畔沿いにスズメノテッポウ、ノボロギク、コハコベ類等の雑草が見られた。